

思い出 Archive

貴重な体験です

茶農家の皆さんにご協力いただき、茶草場の草刈りや茶工場の見学など貴重な体験をさせていただきました。



恒例のお茶摘みツアー!

コロナ前まで恒例にしていたファンクラブイベント「掛川お茶大使吉岡亜衣加とお茶摘みツアー」では、東山や西郷、上内田など市内各地のお茶畑で、会員の皆さんとお茶摘みを楽しみました。



2012年2月号からお茶の間通信がスタートしました。

2020年5月号で、記念すべき100回を迎えました。



つくりました♪

2017年に、連載記事70回分をまとめたchabako(ちゃばこ)を発行しました。ドリップ茶「〜結(ゆい)〜」は、JA青年部の皆さんと共同で開発しました。



こんな使い方も♪

お茶を身近に感じていただくことも意識して、ご自宅でする内容も。茶殻の活用法として、料理や肥料、脱臭アイテムとしての活用法をご紹介します。



園児の皆さんと

新茶の時期には、市内の保育園のお茶摘みに参加。園児の皆さんとともに打ち解けて、一生懸命な姿に癒されながら一緒に楽しみました。



最終号

掛川お茶大使 & 日本茶インストラクター

吉岡亜衣加のお茶の間通信



長年のご愛読、
ありがとう
ございました。

掛川市出身のシンガーソングライターで「掛川お茶大使」の吉岡亜衣加さんが連載する「お茶の間通信」は、平成24年にスタートしました。これまでに、吉岡さんの音楽活動を通じて掛川茶をPRする様子を紹介したり、実際にお茶の作業を体験してもらったりと、数多くの内容をお伝えしてきました。13年に渡り読者とともに歩んできたこのコーナーですが、今回でひと区切りを迎えることとなります。吉岡さんへの感謝とともに、最後のひとときをお届けします。



「お茶は人と人を つなぐもの。」

約13年間で158回という長期の連載となりました。振り返ってみていかがですか。

「あつという間」という感じです。お茶の間通信のおかげで地域の方と接する機会が増え、「お茶の間通信見ています」と声を掛けていただいたり、子どもたちから「お茶のお姉さん」と言ってもらえたりもしました。これは数回の掲載では生まれるものではなく、長くやってきたからこそだと、すごくうれしく思います。連載を続けていく中で、お茶や掛川市のことをお届けしたいという意欲がどんどん湧いてきました。そして何より、見てくれる人がいて、その人たちにこれを伝えたいという気持ちが強かったです。

これまでの連載で印象に残ったことは

たくさんありすぎて悩みますね(笑)その道のプロの方にインタビューをさせていただくと、専門的で深い話を聞くことができ、とても楽しかったです。茶草場農法がどうやって行われているのかを知るため、実際に草刈りをしたり、闘茶

会に参加させていただき入賞することができたりと、本当に多くのことを経験することができました。

お茶を身近に楽しんでもらえることも意識していました。お茶はいいこと尽くめで、おいしくいただくことはもちろんのこと、茶殻も活用できます。これまで、食べたり肥料にしたり、脱臭アイテムとして紹介したこともありましたが、

吉岡さんにとってお茶とは

人と人をつないでくれるものだと思います。お茶自体は日常にあるもので、老若男女問わず共通の話題にすることができそうです。お茶の淹れ方を教わったお子さんが、家に帰り家族にもふるまったという話を聞き、すごくすてきだなと思いました。

最後にひとことお願いします

お茶の間通信でたくさんの方のことを経験させてもらい感謝しています。見てくれる人がいたからこそここまで続けることができました。皆さんに支えられた連載だと思います。これまで、温かく見守ってくださり、本当にありがとうございました。これからも大好きなお茶をPRしていきますので、応援よろしくお願いします。